

けいはんな view



トップインタビュー

国際高等研究所 上田 輝久 氏 西尾 章治郎 氏

けいはんな、次のステージへ

「新たな都市創造」10年の振り返り けいはんな宣言

けいはんな発イノベーション

いのちの未来研究所、TSK

けいちゃん はんちゃん なあちゃんの社会見学…………… 交野市

けいはんな人物図鑑…………… 川節 拓実 さん



国際高等研究所 所長
西尾 章治郎 氏

西尾 章治郎 にしお しょうじろう

1951年岐阜県生まれ。京都大学で工学博士を取得し、情報科学分野で研究を重ね、大阪大学にて教授・サイバーメディアセンター長・副学長を歴任。2015～2025年に大阪大学第18代総長を務めた後、2025年10月より国際高等研究所第9代所長に就任。学際的共創を重視し、新たな価値創造を掲げる。

Interview

けいはんなトップインタビュー

けいはんな学研都市の過去・現在・未来を見つめる「トップインタビュー」。今回は、国際高等研究所（以下、高等研）を率いるお二人にお話を伺いました。理事長の上田輝久氏は島津製作所代表取締役会長、所長の西尾章治郎氏は大阪大学名誉教授・大阪大学前総長。2025年10月の新体制スタート以来、両氏は新たな視点でけいはんな学研都市の特徴や課題について考察されています。ポスト万博やこれからのけいはんなの姿をともに探る貴重な機会となりました。

（聞き手は、河合智明・公益財団法人関西文化学術研究都市推進機構 常務理事）



 公益財団法人
国際高等研究所
International Institute for Advanced Studies

国際高等研究所 (IIAS) は、関西文化学術研究都市の中核研究機関として1984年に設立され、「人類の未来と幸福のために何を研究すべきかを研究する」ことを理念としています。異分野の研究者が集い、学際的な共創によって社会課題に挑む特徴を持ち、産官学連携のもと先進的な基礎研究を推進しています。

上田 輝久 氏
国際高等研究所 理事長

上田 輝久 うへだ てるひさ

1957年山口県生まれ。京都大学大学院工学研究科を修了後、1982年に島津製作所へ入社。1995年京都大学博士号取得（農学）。分析計測機器事業の拡大に貢献し、2015年に社長、2022年に会長就任。産学官連携や環境経営にも積極的に取り組む。2023年6月より国際高等研究所第6代理事長に就任。



高等研が掲げる理念と使命

河合 島津製作所は民間企業として最初にけいはんな学研都市（以下けいはんな）に立地されましたね。

上田 当時は社内でも「なぜけいはんなに進出するのか」という議論があったと聞いています。関連する資料を調べてみると、当時の西八條實社長が高等研の「人類の未来と幸福のために何を研究すべきかを研究する」という基本理念や、産学協同を重視する姿勢に深く共鳴したことや、産学協同は、島津製作所が創業以来大切にしてきた価値観であることから、進出を決めたという背景があります。

河合 高等研が果たすべき使命について、どのようにお考えでしょうか

上田 社会や科学技術が複雑化・多様化する現代、時に望ましくない方向へ進むリスクもあります。だからこそ「何を研究すべきかを研究する」という姿勢は、今いっそう重要と考えます。高等研は、その指針を示す場として存在感を発揮すべきだと思います。

西尾 所長に着任してまず感じたのは、40年の歴史が育んだ高等研の重みです。同時に「不易流行」の精神を大切にしつつ、現代社会が高等研に寄せる期待を見つめ直し、応えていく必要性を強く感じました。創設以来守り続けてきた核である「学者村構想の精神」と「四つの目指すべき特徴」は、これからの活動を支える揺るぎない柱だと考えています。

「学者村構想の精神」と「四つの目指すべき特徴」

「学者村構想」は、初代理事長の奥田東先生が提唱されたもので、“高等研は学術分野や組織の垣根を越えて、国内外の学者・研究者が集い、自由な雰囲気の中での議論・交流を通して新しい学問の萌芽を目指す研究環境を学者村と称し、高等研の重要な柱とする”考え方です。また、設立当初に示された「高等研の基本的な性格」を表す4つの特徴とは以下のとおりです。

- 1) 国際的な研究機関であること
- 2) 先進的な分野・課題を選んで基礎的な研究を行うこと
- 3) 研究課題と研究者を固定しないこと
- 4) 産業界と協力すること

これらは高等研がどのような姿勢で研究に取り組むべきかを示した重要な指針で、今も変わらず高等研の土台となっています。



初代理事長
奥田 東 先生の胸像



文化を軸に、“点”から“面”へつなぐハブ

河合 けいはんなの特徴や可能性、課題をどう評価されていますか。

上田 人口は全体として横ばいですが、若い世代が一定数移り住んでいる点は地域の強みと言えます。さらに「文化」を都市づくりの要の一つに位置づけていることも、ほかの学術研究都市にはない大きな特色です。これまで、中核的研究機関が成果を積み上げてきた一方で、設立後の40年を経て各機関が縦割りになっていないかという懸念もあります。けいはんなは地理的には京都が中心となる中で、大阪や奈良との広域連携をどこまで深められるか——これも今後の重要な課題です。

西尾 けいはんなには160を超える民間企業や研究所、大学などの教育研究機関が立地し、住民を含めた多様なステークホルダーが存在しています。発展の鍵は、こうした“点”をネットワーク化し、“線”から“面”へと有機的な街に育てること。つながりが生まれればシナジーが生まれ、都市全体が大きく発展していくと確信しています。新体制の高等研は、そのハブとなるべく、スローガン「Building Bridges Beyond 2030」を掲げました。地域の企業・研究機関・教育機関に“橋を架ける”とともに、研究成果の発信のための交流プログラム等を通じて住民ともつながり、公益的な活動でも橋渡し役を担っていきます。

学術×産業×国際で拓く、ポスト万博のけいはんな

河合 学術と産業界の連携について、これからの方向性はいかがお考えでしょうか。

上田 島津製作所の例では、大阪大学との培養肉製造用3Dバイオプリンターの開発、神戸大学とのバイオものづくりの共同、京都大学とは芸術(アート)と科学技術の融合、京都府とは伝統工芸×先端技術の融合などに取り組み、それらの共同研究の一部は大阪・関西万博でも披露しました。異分野連携こそ新しい価値を生む原動力です。

スローガン「Building Bridges Beyond 2030」

高等研の4つの目指すべく特徴を遵守しつつ、2025年10月に発足した新たな研究所運営体制のもと、研究機能の刷新と一層の飛躍を目指し、SDGsの達成目標年である2030年に向け、さらにはその先を見据えて、高等研がけいはんな学研都市の中核的学術研究機関(ハブ)として多様なセクターに橋を架け、創造的かつ国際的な基礎研究及びイノベーション創出の推進に貢献するという活動指針を定めた。

河合 今後の注目分野や、けいはんなとしてアピールすべき点をお聞かせください。

西尾 これからは情報通信・AI・ロボット・量子の技術が中核になっていくと思われます。この分野でけいはんなにはATR(国際電気通信基礎技術研究所)、NTTコミュニケーション科学基礎研究所、QST(量子科学技術研究開発機構)関西量子科学研究所、NICT(情報通信研究機構)ユニバーサルコミュニケーション研究所、理化学研究所など、これらの技術に関する世界的な研究機関が集積しており、これからの企業にとっても不可欠な基盤技術です。これらを核に地域内プラットフォームを構築し、けいはんなに立地する企業・研究機関と一体で地域の発展を加速させることができないかと考えています。高等研としても“橋を架ける”役割を果たします。加えて「国際展開」は高等研の要です。海外の研究機関や研究者との協働は重要なミッションであり、所長である私と副所長の赤松玉女・小林傳司・山田道夫の3人の先生方が連携し、相互に補完し合いながら広い学問領域をカバーしつつ国際的な学術的・人的ネットワークの強化を進めます。

河合 都市名称にもある「文化」を生かす視点と、人材育成についてはどのようにお考えですか？

西尾 筑波が東京都内の国立研究機関・大学の集中移転で形成されたのに対し、けいはんなでは京都・大阪・奈良にまたがる多様な歴史と文化が蓄積され、民間主導で自由度高く展開してきました。この点は大きな宝であり、この文化的資源をどう生かすかが鍵になります。人々に寄り添いながら活動する力が問われています。また、文化面として高等研では「芸術」に視点を置く研究活動を計画するほか、高等研が寄贈を受けた茶室「雅松庵」で繰り広げられる「茶の湯文化」にも着目しており、事業活動としての取り組みも構想しています。



茶室「雅松庵」

上田 けいはんなを「人が成長する都市」と評されるようにしたい。新たな気付きが生まれるような人財をどうやったら育成できるか。高等研ではこれまで、文理両面でさまざまな講演会や、高校生・大学生向けのセミナーを続けてきました。そのノウハウをけいはんな学研都市「大学・研究機関」共創会議*でも生かしたいですね。

*けいはんな学研都市「大学・研究機関」共創会議:けいはんな地域を中心とした21の大学や研究機関が集まり、知の交流と連携を深めるために開催している協議体。
故松本紘前国際高等研究所長に引き継ぎ、西尾所長が座長を務める。

河合 最後に、これからのけいはんなのまちづくりにむけた想いをお聞かせください。

上田 未来都市、人材育成、国際交流の三つをどう進化させるかです。けいはんなを「ウェルビーイングを実現する幸せな町」というビジョンを掲げて、その時々ミッションを追求することを大事にしたいと思います。

西尾 けいはんな万博2025を通じて実証された最大の強みは、産官学民が横串でつながるという“ソフトレガシー”が生まれたことです。大阪・関西万博が象徴した「多様でありながら、ひとつ」の理念をけいはんなの都市構想に反映させることが、確実な成長と革新につながると確信しています。

河合 本日はどうもありがとうございました。



国際高等研究所 副所長のご紹介(2026年3月時点、左から)

赤松 玉女(専門分野:芸術文化)
京都市立芸術大学名誉教授、前理事長・学長、画家

小林 傳司(専門分野:科学哲学、科学技術社会論)
科学技術振興機構(JST)社会技術研究開発センター長、大阪大学名誉教授

山田 道夫(専門分野:数理解析、流体力学・非線形力学の理論的・数値的研究)
京都大学数理解析研究所元所長・特任教授、東京大学名誉教授、京都大学名誉教授

「新たな都市創造」10年の振り返り

けいはんな学研都市は、10年ごとにステージプランを描きながら、都市づくりを進めてきました。2025年度をもって、第4期ステージプラン「新たな都市創造プラン」が最終年度を迎え、万博後の新たな都市像が問われる節目を迎えることとなりました。

実証都市としての強みをさらに発展させ、研究成果をより早く社会実装へとつなげていくため、けいはんなの次の10年を見据えた新しいステージプランの検討が進んでいます。次号での紹介に先立ち、第4期の歩みを振り返ります。

「新たな都市創造プラン」とは

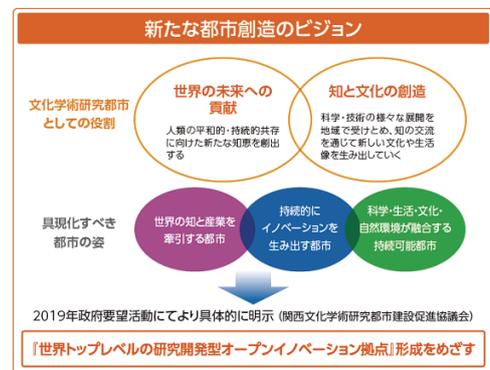
2016年から2025年までの10年を対象に、けいはんな学研都市が文化学術研究都市として次のステージへ進むための方向性を示したものです。京都・大阪・奈良の3府県8市町に広がる都市の強みである、多様な研究機関・大学・企業の集積を生かし、具現化すべき都市の姿として次の3つを掲げました。

- 世界の知と産業を牽引する都市
- 持続的にイノベーションを生み出す都市
- 科学・生活・文化・自然環境が融合する持続可能都市

これを実現するため、以下の4つの取り組みが進められました。

1. 文化・学術研究の振興(知のフロンティア創出)
2. イノベーション推進(オープンイノベーションの基盤形成)
3. 都市形成(スマートな暮らしの実現、歴史・自然との共生)
4. 都市運営(多主体連携によるネットワーク型運営)

10年間の取り組みを通じて、研究開発から社会実装までの流れは確実に強化され、スマートシティ実証や国際連携の進展により、けいはんなは次の10年を見据えるうえで重要な基盤を築いてきました。



「新たな都市創造プラン」の歩み

文化・学術研究の振興

立地施設は160を超え、研究者・職員数は約1万2千人へと拡大。先端の学術研究の発展、デジタルアーカイブや多言語翻訳など文化創造につながる活動の拡大、国際高等研究所や大学の人材育成も深化。また朱雀門ひろば等の整備により歴史文化資産の魅力が向上し、文化・学術が生活と結びつく都市として進展が図られました。

イノベーション推進

リサーチコンプレックス事業や住民参加型実証フィールド(Clubけいはんな)により、イノベーション推進の中核機能が発展、充実。理化学研究所の誘致など研究集積が進む一方、KGAP+を通じた44か国538機関との国際連携も進展。後半期にはスタートアップ支援拠点、けいはんなイノベーションハブ、学研フードテック共創プラットフォームが相次いで始動しました。

都市形成

未整備クラスター600haの事業化、狛田東地区などで新規供給が進み、次世代エネルギー、防災、モビリティなど約90件/年の実証を住民参加で実施。南田辺・狛田ではフードテックの集積形成が始動。国道163号や新名神の進捗、城陽井出木津川バイパスの事業化など交通アクセスも強化されました。

都市運営

約80機関が参画する「新たな都市創造会議」が設置され、課題・情報が共有されたほか、8大学・13研究機関による「大学・研究機関」共創会議も結成され、横断的な協働基盤が形成。広報ネットワーク会議やインジケーターマップ等の情報基盤も構築されました。後半期には「けいはんな万博2025」の開催が実現し、のべ20万人が参加する大規模共創に発展。また「大阪・関西万博アクションプラン」では、けいはんなが「ポスト万博シティ」として位置づけられました。

2016年から2025年までの10年間、けいはんな学研都市では多彩なプロジェクトが進み、都市の姿は大きく進化しました。研究・産業・文化・市民が交じり合う中で生まれた取り組みを時系列でたどります。

2016	<ul style="list-style-type: none"> • けいはんな広報ネットワーク発足 • 「新たな都市創造プラン」を策定 • 京都大学大学院農学研究科附属農場が開所 • 「世界に誇る地域発研究開発・実証拠点(リサーチコンプレックス)推進プログラム」に本採択 • 「Clubけいはんな」発足
2017	<ul style="list-style-type: none"> • 新名神高速道路(八幡京田辺JCT・IC-城陽JCT・IC)が開通 • 公道走行実証実験プラットフォーム(K-PEP)の提供を開始
2018	<ul style="list-style-type: none"> • 平城宮跡歴史公園が開園 • 理化学研究所けいはんな地区「iPS細胞創薬基盤開発連携拠点」が開所
2019	<ul style="list-style-type: none"> • Keihanna Global Acceleration Program Plus (KGAP+)がスタート • けいはんなで大阪・関西万博を考える会(座長・松本紘)設立
2020	<ul style="list-style-type: none"> • 国道163号木津東バイパス、都市計画道路東中央線が開通 • 内閣府スタートアップ・エコシステム都市に「大阪・京都・ひょうご神戸コンソーシアム」が選ばれ、けいはんな学研都市が拠点の一つに
2021	<ul style="list-style-type: none"> • 「第6期科学技術・イノベーション基本計画」にオープンイノベーションの拠点として記載 • 文化学術研究地区の人口が10万人を突破 • けいはんなプラザラボ棟に新しいスタートアップ創出支援拠点(天の川+)を新設 • Withコロナ時代の情報発信プラットフォーム「けいはんなLINK」を開設
2022	<ul style="list-style-type: none"> • 「けいはんな万博(仮称)全体構想」を取りまとめ • けいはんな万博(仮称)開催準備会 設立 • けいはんな学研都市「大学・研究機関」共創事業スタート
2023	<ul style="list-style-type: none"> • けいはんな万博2025運営協議会 設立 • 学研フードテック共創プラットフォーム 設立 • 「けいはんなアバターチャレンジ」プレ大会実施 • 「けいはんなSciencepedia」公開 • 「学研都市精華地区における経済安全保障上の技術流出の防止に関する包括的連携協定」締結
2024	<ul style="list-style-type: none"> • 「大阪・関西万博アクションプラン」第5版で『ポスト万博シティ』の推進の実施想定場所に位置づけ • 「けいはんなイノベーションハブ」運用開始 • けいはんな経済安全保障センター 開所 • 「Clubけいはんな」に倫理審査委員会を設置
2025	<ul style="list-style-type: none"> • 「けいはんな万博2025」開幕 • 「新たな都市創造プラン」最終年度

これらの成果は「けいはんなの次の10年」第5期ステージプランへとつながっていきます。

けいはんな万博の レガシーをつなぐ

けいはんな万博2025運営協議会、 新年賀詞交歓会において「けいはんな宣言」を公表



1月9日のけいはんな学研都市新年賀詞交歓会において、けいはんな万博2025運営協議会の共同代表、堀場厚・関西文化学術研究都市推進機構理事長が「けいはんな万博2025」の成果を総括し、未来への決意を表明する「けいはんな宣言」を公表しました。

これは、「大学・研究機関」共創会議による提言と、けいはんな万博閉会セレモニーにおいて発表された「若い世代からの提案」をもとにまとめられたものです。

万博の成果を次の10年へとつなぎ、実証都市としての強みをさらに磨き、研究成果を社会へ還元し続けることを誓う新たな出発点です。この宣言は、10年の実践を土台に、今後のまちづくりに向けた方向性を示しています。



けいはんな万博2025の成果とレガシー、未来への提言を広く発信するということについては、基本計画策定の段階から決定していました。実際にイベントの実施に携わってきた担当者等が起草チームを作り、半年間の成果を基に、1978年の「関西学術研究都市調査懇談会」(通称「奥田懇」)以来脈々と継承してきた都市草創の理念や、閉会セレモニーでの若い世代からの提案やアカデミアからの提言等も踏まえて、議論を重ねて原案を作成しました。

けいはんな宣言

- 一、様々な立場の人々が気軽に集うコモンズが整い、共に考え、共に学び、共に創る共創のネットワークが一層広がる中で、人材を育て、新たな文化や価値観、研究開発のアイデアを生み出す都市
- 一、絶えずイノベーションを生み出し、社会における実証、実装を促進することで持続可能な事業や産業を育む都市
- 一、豊かな歴史文化に基づく多様な叡智を集め、科学技術を人間の幸福につなげる理念と成果を、日本全国、さらに世界へと発信する都市
- 一、誰もが科学の進歩や文化の豊かさを享受し、夢や希望に満ちた未来への高揚感を感じられる都市
- 一、誰ひとり取り残さず、あらゆる人々が健康で平和で豊かに暮らせるウェルビーイングに満ちあふれた都市

これらを実現するため、けいはんな学研都市が一体となって挑戦を続けます



みらるる

けいはんな学研都市シンボルキャラクター

けいはんな万博の
愛されるレガシー

みらるるをこれからも よろしくお願いいたします。

「けいはんな万博2025」は、けいはんな学研都市が目指す「世界の未来への貢献」と「知と文化の創造」というビジョンへのマイルストーンとなるもので、開催を機に制作したキャラクターは、「みらるる」と命名され、地域住民やけいはんな万博に関わる人々にとって身近で親しみやすい存在として、心に残るもののひとつとなりました。

そのため、けいはんな万博以降もレガシーのひとつとして、地域全体で共有できる「けいはんな学研都市シンボルキャラクター」の役割を担うこととなりました。

けいはんな地域のイメージアップ、魅力発信のため、地域全体で愛され、末永く活用していただければと考えています。

シンボルキャラクターみらるるについて

※そのほかのデザインもご紹介しています。

<https://www.kri.or.jp/know/symbol/miralulu.html>



次の10年をともに創る都市へ

けいはんな学研都市が果たす役割と目指すべき都市像を実現するため、次の10年に向けた「けいはんな学研都市第5期ステージプラン」の検討が進められています。2026年1月26日開催の検討委員会第2回総会では、以下の方向性を共有しました。第5期ステージプランは、2026年3月末の決定を目指しています。

ビジョンの策定

第5期ステージプランでは、日本や世界が直面する社会課題の解決に向けて、学研都市が果たす役割を「『世界の未来への貢献』／『多様な知と文化の融合による新たな価値創造』」とし、目指すべき都市像として「未来都市」、「人材成長都市」、「共創都市」の3つを掲げています。

ビジョンの実現に向けて

ビジョンの実現に向けて、取り組み内容の検討が進んでいます。

奥田懇による
提言

1978(S53)~
1984(S59)

セカンド
ステージ
プラン

1996(H8)~

サード
ステージ
プラン

2006(H18)~

新たな
都市創造
プラン

2016(H28)~

第5期
ステージプラン
2026(R8)~

※第5期ステージプランの取り組みについては次号69号に掲載します。

社会見学 学研都市

交野市編

けいちゃん・はんちゃん・なあちゃんの3人が、けいはんな学研都市の8市町(精華町、木津川市、京田辺市、枚方市、交野市、四條畷市、奈良市、生駒市)を訪問します。

けいはんなView Vol.68では、交野市を訪問しました。

～お花見だけじゃもったいない! 多様性を実感できる『森の植物園』を歩いてみよう～

交野市にある『大阪公立大学附属植物園』に行ってきたよ!ここは甲子園球場6つ分ほどもある広さで、2700種もの植物が収集されているんだ!別名『森の植物園』とも呼ばれているそうなんだけど、一体どんな取り組みをしているんだろう?

「今はこのように森が広がっていますが、ここは元々、田畑が広がっている拓けたような場所だったと言われているんですよ」と教えてくださったのは、案内をしてくださった園長の名波さん。園の中には、日本各地から収集したという樹木により、全国に存在する『11タイプの森林生態系』が再現されていたよ。葉の色や厚み、樹木の種類の違いが見た目でもハッキリ分かることで、生物の多様性を実感できる仕掛けになっているんだって!寒い地方や暖かい地方、海沿いの場所など、それぞれの森林が隣り合って展示されているので、園内を歩くだけで日本中の森を旅しているような気持ちになったよ。



さらに、この植物園の特色とも言えるのが『絶滅危惧種のコレクション』。陸に生えている植物100種以上に加えて、湿地や河川敷に生息する約50種類もの水生植物が栽培されているんだ。植物が絶滅へと追いやられてしまう原因は、生息地の開発や埋め立て、生活スタイルの変化で里山が放棄されることなど、いくつもあるんだそう。この植物園で栽培されている絶滅危惧種は、説明の札にハートマークが書かれているよ。探してみてね。

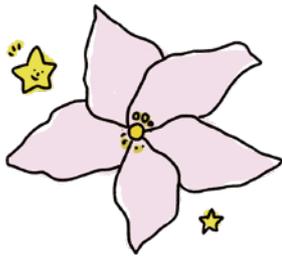
そんな絶滅危惧種の保全活動が実績となり、この植物園は環境省によって認定希少種保全動植物園等に認定されているんだって!動植物園など26園が認定される中で植物園は2園だけらしく、たくさんの希少植物を栽培するノウハウや技術が国に認められたということなんだね。すごいや!



「この園で採取したデータは都市開発やグリーンインフラの管理のために活用されることが期待されています。植物にどんな効果があって、市民環境にどんな影響があるのか。『大阪市環境白書』という快適な都市環境を確保する取り組みにおいても、研究のデータを役に立てたいと考えています。」と、園長の名波さん。

植物園って、遠足やピクニック、お花見なんかでお出かけすることが多かったけれど、実はこんなに様々な研究や取り組みが行われていたんだね。今度から植物園に行く時は、もっと植物を観察して、どんな場所に生息していたのか想像して楽しむことができそうだなあ。大阪公立大学附属植物園は一般公開されていて、市民向けの観察会も開催されているので、みんなも『森の植物園』で色んな発見をしてみてね。

園内は他にも珍しい植物や、四季折々で楽しめるお花がたくさん！
実や花を食べに、色んな鳥や小動物が遊びに来るよ。



私市の明星

星の形をした桜の花☆

春になると園内にある75品種もの桜が咲きほこり、2ヶ月にわたって順番に咲いていく「桜のリレー」を楽しむことができる。



龍の舌みたいな長い葉っぱ！ アオリユウゼツラン

葉の長さが1mあり、50~60年も生きる植物。
優に5mは超え10mになるものもあるくらい伸びて、一生に一度、花を咲かせて枯れてしまう。

カンサイタンポポの お花畑

3月のおわり~4月頃までは
『カンサイタンポポ』が一面に咲き、
芝生いっぱいに黄色い絨毯が広がる。



INFORMATION

交野市は、大阪府の北東に位置し、緑あふれる自然環境と都市の利便性を「いいとこどり」できるまちです。市内には、JRや京阪電車、第二京阪道路(高速道路)が通り、都市部へのアクセスも良好。大阪市内までは、電車、車とも30分圏内という近さで、通勤や通学だけでなく、お出かけにも便利です。

自然と触れ合い体験ができる、広大な敷地の「大阪公立大学附属植物園」や国内最大級の人道吊り橋「星のブランコ」、ぶどう狩りなど魅力あるスポットがたくさんあります。

子育て支援や小中一貫教育を導入するなど、安心して子育てできるための支援や施設の充実を進めた結果、子育て世帯に選ばれるまちになり、15歳未満と30~40代の子育て世帯の人口が増えています。

今後も、「懐かしさと新しさが交わる みんなの心が和むまち」を目指して取り組んでまいります。これからの交野市に、ぜひご期待ください。



<https://www.city.katano.osaka.jp>



イラスト・記事制作 おおえさき

イラストレーター、マンガ家、ラジオDJ。
京都市出身。
著書『ショート・ショート・キョート』発売中。
FMKYOTO『FLOWER HUMMING』
毎週日曜20時からOA中。
SNSにて作品更新中！
X / Instagram @ohyeah_saki

いのちの未来研究所

—万博のレガシーを社会へひらく、新しい「未来の実験場」

株式会社国際電気通信基礎技術研究所
いのちの未来研究所



2025年の大阪・関西万博で、とりわけ多くの来場者を魅了したパビリオン「いのちの未来」。その世界観と成果を“未来社会への問いかけ”として継続し、より広い社会へ開いていく場として誕生したのが「いのちの未来研究所」です。2025年10月、けいはんな学研都市・国際電気通信基礎技術研究所(ATR)内に開設された研究所は、万博のレガシーを未来に向けた実験と実装につなげる拠点として歩みを始めました。研究所の役割や、けいはんなに設置された理由について、研究所長の石黒浩先生に伺いました。



けいはんなオープンイノベーションセンター (KICK)
「いのちの未来」レガシー展示

ヤマトロイド / Yamatoroid

大阪・関西万博に生まれたアンドロイドアバター。
関西の奈良にある日本の歴史発祥の地や日本全体を表す言葉、日本に古代より息づく精神性を体現する言葉である「大和」を名前に持ち、中性的でしなやかなプロポーションが特徴で、人間らしい繊細な感情表現を実現しました。眉や口元、目の動きまで細かく調整可能で、感情や意図を豊かに伝えることができます。万博を終え、ここKICKで「いのちの未来研究所」に所属し、このレガシー展示のガイド役を務めています。

サイズ
W600 × D600 × H1780 mm
重さ
約63kg

いのちの未来研究所は、何を目的に生まれたのか？

「いのちの未来研究所」は、万博のシグネチャーパビリオン「いのちの未来」で提示した理念を継承し、さらに発展させるために設立された研究所です。パビリオンで使用したアンドロイドのうち、7体が京都府を通じて研究所に移管され、これらを活用しながら活動を行っています。

万博で伝えたかったのは、“未来は自分たちで考え、作っていくもの”というメッセージです。研究所では、アンドロイドという象徴的な技術を用いながら、未来社会に向けた思考を広く社会と共有していく取り組みを継続します。

研究の中心テーマは「いのちの未来」の探究ですが、展示や文化・教育活動への展開も重要な役割です。多様な立場の人々が未来について考える機会を生み出すことを目的に、アンドロイドや関連コンテンツを全国で活用していきます。

日本の歴史や精神性を表す「大和」を名乗り、表情豊かなヤマトロイド

アンドロイドとの共生社会の実現を目指す

ATRでは20年以上にわたり「人とロボットの関わり」を研究してきました。研究所ではその蓄積を基盤に、研究だけでなく、展示、芸術表現、教育プログラムなど、社会に開かれた形でアンドロイドを活用していく予定です。こうした取り組みを通じて、人とロボットが自然に関わり合う“共生社会の実現”を見据え、住民がアンドロイドと触れ合う機会を広げていきます。

技術面では、大規模言語モデルをはじめとする生成AIの発展が、アンドロイドをより柔軟で自然な対話が可能な存在へと押し上げました。以前は限定的だった活用範囲が、公共空間や教育、観光などに広がり、研究は実装段階へ近づいています。研究所は、技術進化と社会受容の双方を踏まえ、人とAI・ロボットの新しい関係性を探っています。

ロボットを“友だち”として受け入れる日本文化

日本ではロボットを“友だち”のように自然に受け入れる文化があります。海外のようにロボットと人間を明確に区別するのではなく、人間に近い存在として捉える独自の感性があり、アンド



FUTURE OF LIFE

いのちの未来



いのちの未来研究所 石黒浩 所長

ロイドを文化活動に活用する取り組みが進んでいるのは日本ならではの。

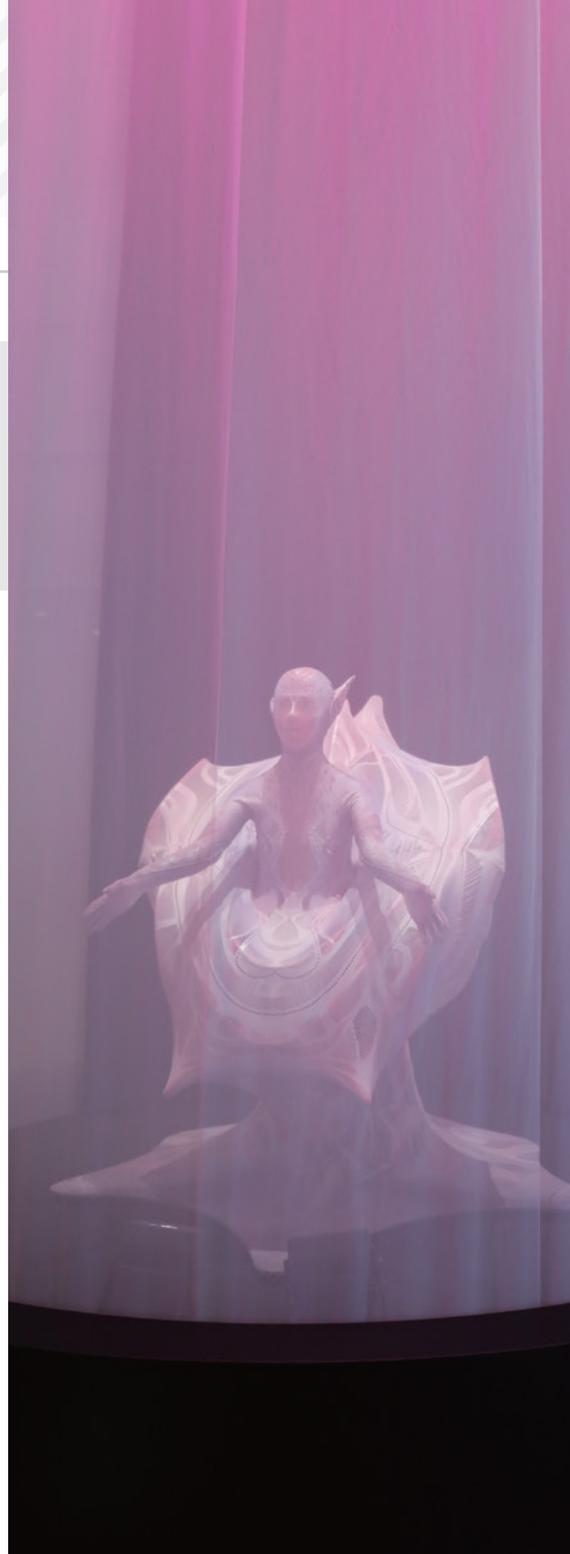
こうした文化的特徴は、共生社会を考える上で重要な土壌となっています。AIやロボットが特別ではなく、生活の中に溶け込む未来が近づくなか、人と技術がどのように補い合うかを考えることが求められています。

研究所をけいはんなに置いた理由、そして研究所が目指す未来

けいはんなに研究所を置いた理由のひとつは、学研都市としての“つながりやすさ”にあります。複数の大学から研究者が集まりやすく、分野を越えた

研究者同士の協働が生まれやすい環境です。実際に、京都大学、大阪大学、慶應義塾大学、奈良女子大学など、さまざまな大学の研究者や学生が参加しています。こうした越境的な連携が行えることが、けいはんなに拠点を持つ大きな価値だと考えています。

研究所は、こうした環境を活かしながら未来の共生社会を見据え、アンドロイドの社会実装と、人と技術の新しい関わり方を探求していきます。



1000年以上先のいのちの形を表現したアンドロイド「モモ(MOMO)」

2月21日、けいはんなオープンイノベーションセンター(KICK)で「アンドロイドお披露目記念シンポジウム」が開催されました。当日は京都府知事の西脇隆俊氏が進行役を務め、石黒浩所長、総合地球環境学研究所の山極壽一所長、そして関西文化学術研究都市推進機構の堀場厚理事長が登壇し、「大阪・関西万博のレガシー継承」をテーマにしたトークセッションも行われました。

21、22日に開催されたお披露目イベントには定員を超える申込みがあり、小さな子供から高齢者まで、地域の関心の高さがうかがえる催しとなりました。



「いのちの未来」公式サイト
<https://www.expo2025.or.jp/expo-archive/project/ishiguro/>



サステナブル素材の革新 鉄触媒とフルボ酸がもたらす新しい循環



株式会社TSK



株式会社TSKは、鉄を触媒とする独自の有機合成技術で機能性素材を創出する企業です。パラジウム(レアメタルの一種)に代わる次世代技術として、地球に豊富で環境負荷の少ない鉄触媒に挑み、京都大学との共同研究で反応制御の難題を突破。性能・コスト・環境面で価値を提供しています。

鉄触媒で挑む 次世代の有機合成技術

人類の暮らしを支えてきたものづくりは、分子を組み立てる有機合成化学の発展とともに進歩してきました。近年、この分野で大きな役割を果たしてきたのがパラジウム触媒で、分子設計の幅を飛躍的に広げました。しかし一方で、パラジウムは希少性や地政学的リスク、環境負荷といった課題を抱えています。希少金属依存からの脱却は、ものづくり産業にとって持続可能性・コスト・供給安定性のすべてに関わる重要課題です。

そこでスポットライトを浴びるのが鉄。地球上に豊富にあり、安全で環境にもやさしい素材です。しかし、鉄触媒反応を制御することはとても難しいのです。

TSKはこの難題に真正面から挑み、鉄触媒研究の第一人者、京都大学化学研究所・中村正治教授と共同で研究開発を進めてきました。独自の触媒設計と反応プロセスにより鉄触媒の産業利用を実現し、新規の機能を持つ新材料の創出に取り組んでいます。

合成可能な物質の優位性

鉄触媒にしか合成できない物質を創出できます

プロセス優位性(パラジウムとの比較)



鉄はパラジウムに比べて、資源価格、地球での存在量の点で大きな優位性を持つ

2つのコア事業:有機EL材料と バイオスティミュラント

こうした鉄触媒の成果が大きく生きているのが、有機EL材料の開発です。スマートフォンやモニターなど、有機ELを利用した製品の広がりとともに、より高性能で持続可能な材料が求められています。TSKは、鉄を基盤に、高効率で低コスト、かつ環境負荷の小さい次世代材料を生み出す取り組みを進め、その独自技術はレアメタル依存脱却の新たな可能性を提示しています。



EL材料に用いる
青色発光体

一方で、バイオスティミュラント分野にも注力しています。バイオスティミュラントとは、植物が本来持つ力を引き出し、環境ストレスへの耐性や養分吸収を改善する資材のことで、自然界で数百~数千年をかけてゆっくり生成されるフルボ酸もそのひとつです。

TSKは廃材由来のスギ樹皮を原料に、鉄触媒技術の活用によりフルボ酸をわずか1週間で合成する方法を確立し、未利用自然資源のアップサイクルにもつながっています。2025年3月には、作物の生育改善や土壌環境の向上に寄与する製品として「鉄フルボさんTS-01」を発売。農業分野のみならず、化粧品や水産分野など、多様な領域への応用も視野に入れています。



フルボ酸製品「鉄フルボさんTS-01」

けいはんなを拠点に広がる 研究開発と事業化

現在TSKは、けいはんな学研都市の産学連携拠点「D-egg」に拠点を構え、研究開発から事業化までを一体的に推進しています。大学・研究機関・企業が近接するこの環境は、研究から試作、実証までをスピーディに進められる、スタートアップにとって理想的な場所です。これからもけいはんなを拠点に、「環境と産業が両立する未来」へ向けて挑戦を続けてまいります。



フルボ酸製品では「森里海を結ぶフォーラム」とも連携
(左から:中村正治 弊社取締役・京都大学教授、田中克 代表、弊社代表取締役 孫恩詰)

株式会社TSK
<https://tsk.kyoto/>



Instagram
@tsk.kyoto



けいはんな 人物図鑑

ロボット競技を通して、新しい学びの場を拓いてきた実践者。



次世代ロボットエンジニア支援機構
代表理事

川節 拓実 さん



次世代ロボットエンジニア支援機構、通称Scramble(スクランブル)は2020年にけいはんなオープンイノベーションセンターを拠点に発足した一般社団法人です。Scrambleのビジョンは「誰もがエンジニアの素養を持ち、より良い社会を共創する」こと。そのためにロボット競技を活用し次世代の日本のものづくり界隈を牽引する次世代のエンジニア“挑戦的共創人材”の育成を進め、エンジニアの裾野拡大を図ります。<https://scramble-robot.org/>

けいはんな発の
小さな取り組みが全国へ

挑戦的共創人材育成プログラムの一つは、2022年からけいはんなで始まった小中学生向け地域ロボット部活動、ジュニアロボットチームです。地域のエンジニアが地域の子供達を育てることをコンセプトに、より高度なエンジニアリングに挑戦したい、チームでのものづくりに挑戦したい子供達が参加しています。けいはんなから始まったこのジュニアロボットチームは、現在福岡、大阪、愛知、東京、千葉へと広く展開中です。

なぜ今、
挑戦的共創人材の育成
が必要なのか？

昨今、技術が飛躍的に進歩する時代において、残念ながら日本の存在感は低下しています。私は京都大学工学部の教員が本業ですが、特にロボットやAI分野においては米中の競争が凄まじく、その競争を支えているのは米中ともにしっかりした、そして我が国にない人材育成システムを有していることに強い危機感を持っています。我が国が科学技術立国として再び誇れる国になるためには、今への投資だけでなく未来への投資、つまり人材育成システムを再考する必要があります。そして若手エンジニアや研究者が集うScrambleで出した結論が、現在進める挑戦的共創人材の育成プログラムです。

けいはんなは
ここが魅力的

元々けいはんなには何の縁もない中でここを拠点に選んだのは、新設されたばかりで全国的にも珍しいロボットテストフィールドである「けいはんなロボット技術センター」と当時の京都府担当職員の方の存在でした。その方は京都、けいはんなをロボットで盛り上げたい!という大変な熱意を持つ方で、その方とけいはんなからロボットを盛り上げて行く活動を数年展開させていただき、弊機構も現在に至るまで成長することができました。学研都市として科学技術に興味ある地域住民が多く、地域の子供向けの事業を試験実施しやすい環境であることが、けいはんなの魅力の一つです。



相楽東部×けいはんなで広がる共創 知事が地域課題と連携の可能性を視察

2025.12.18

西脇隆俊 京都府知事は、住民の声を現場で直接聞き取り、地域の実情を政策に反映する「地域課題解決プロジェクト」の一環で、南山城村・笠置町・和束町の相楽東部3町村を訪問し、移住者、地域資源を活かした事業者、地域調査に取り組む同志社女子大学の学生らと意見交換を行いました。

けいはんな学研都市から相楽東部へは、車で1時間以内とアクセスも良好。今回の訪問には、けいはんなからの参加者も同行し、スタートアップ企業の技術を地域課題の解決に結びつけるマッチングの取り組みを紹介しました。両地域の距離の近さを活かして、もっと交流の機会を増やしたいとの声も上がりました。

意見交換では、移住者や事業者から相楽東部の「知られざる魅力」が数多く紹介され、地域の可能性を再確認。合わせて、企業交流や人流促進など、けいはんなと相楽東部が互いに刺激し合いながら活性化を図る方向性が話し合われました。近接する地域同士のつながりを深めることで、新たな共創の動きが生まれることが期待されています。



南山城村



笠置町



和束町

自動運転バスの試乗体験会 けいはんなでの社会実装に向けた実証運行

2026.1.24-2.13

京都府では、最先端技術の活用による社会課題の解決に取り組んでおり、人手不足で公共交通の維持が難しくなる中、地域のバス路線を支えるため自動運転バスの社会実装に向けた取り組みを進めています。

今回は、京田辺市・同志社山手エリアと木津川市・城山台エリアにおいて、駅前バスロータリーを発着地点に、実際のバス路線やバス停を利用し、社会実装を想定した実証運行が行われました。3週間で2市合わせて約1,400名の方が試乗体験に参加し、近い未来の社会実装への期待が高まりました。

今回の実証は、自動運転「レベル2」で行い、運転手の同乗は必須ですが、基本的にはシステムが運転を行う部分運転自動化で走行。実際に乗車すると、同乗する運転手の手動介入なしでの右左折やバス停の停車帯への車体寄せ、駐車車両の追い越しなど、スムーズな乗り心地が印象的でした。

また、将来的な特定条件下での無人運行・自動運転「レベル4」の社会実装を見据え、走行ルート上で手動介入の多い場所の洗い出しや複数台のバスの遠隔監視システムのシミュレーションの実施など、安全性と採算性を確保するための課題検討も行われました。今後、こうした自動運転バスをはじめとした次世代の交通手段などが地域の移動を支え、より豊かな生活や活発な交流が広がっていくことが期待されます。



運行に先駆けて出発式(1/23)



バスターミナル内も円滑に停発車



車載センサーで歩行人や車両、障害物、信号などを認識

けいはんなプラザ・プチコンサート 1000回開催記念コンサート

2025.1.25

けいはんなプラザ・プチコンサート(通称:プチコン)1000回開催記念コンサートが開催され、家族連れを中心に約500名が来場し、会場は温かな拍手と笑顔に包まれました。

プログラムは、声楽・ピアノ・ヴァイオリン・フルート・サクソなど多彩な演奏で構成され、幅広い世代が楽しめる内容。演奏者への質問コーナーでは、プチコンに出演したきっかけや、そこで得た貴重な経験などの回答もあり、公演は、これまで支えてきた地域・企業・観客の皆さまへの感謝を音楽に込めた特別な時間となりました。



プチコンとは? —けいはんなの小さな音楽文化

「けいはんなプラザ・プチコンサート」は、けいはんなプラザのアトリウムロビーで第2・第4水曜日の12:15~12:45に開催されている無料のロビーコンサートです。1998年11月にスタートし、出演者は主に音楽大学の学生・院生や若手音楽家たち。お昼休みのひとときに気軽に楽しめるコンサートとして、来館者に四半世紀以上愛され続けてきました。

その役割と魅力

若手演奏家を支える成長の場

音楽大学を卒業したばかりの若手演奏家にとって、ソロで舞台上に立てる機会や自主企画で演奏できる場は貴重です。リピーターも多く、演奏者に送られる温かい拍手は、大きな励みになっています。

まちの日常に音楽がある風景

誰でも無料で参加でき、昼休みに立ち寄れる手軽さが魅力。研究者・学生・地域住民が集う「文化の広場」として、けいはんな学研都市の日常に豊かな音楽を届けています。

地域に支えられて育つ、続いてきた文化

行政・企業・団体からの協賛により、25年以上にわたり継続する地域文化事業として確立。“文化を地域で支え、育てる”けいはんなならではの取り組みとして根付いてきました。

これからもプチコンは、けいはんなのまちに優しい音楽を届け、若い演奏家たちの未来を後押ししながら、地域文化を育てていきます。

けいはんな
プラザ・プチコンサート



<https://www.keihanna-plaza.co.jp/event/concert/>

けいはんな等でロボット自律協調運行の実証検証 ロボット共生社会を目指して

2026.2.2-3/2.16-20

人口減少に伴う人手不足など地域の社会課題解決を目指し、複数のロボットが同じ空間で安全に運用される未来を見据えた実証実験が、けいはんなプラザ及び京都リサーチパーク(KRP)で実施されました。検証のためのロボットの提供や運行システムの構築には、けいはんな学研都市でロボット開発を行う企業も参画しました。

けいはんなプラザでの実証実験では、配送ロボットや警備ロボットなどの複数のロボットが、同一エリアで自律しつつ協調して動く環境を再現し、走行上の不具合やシステムの課題の洗い出しを実施。その結果を踏まえて、続くKRPでは、ロボットによるフードデリバリーのサービス提供を通じ、社会実装に向けた課題や有用性等の検証が行われました。

本実証を通じてロボット業界の共通ルールの策定や多様なロボットの円滑な協調運行の仕組みが構築され、将来的には企業や施設での導入時の運用コストダウン等に寄与することで、ロボット共生社会の実現に繋がっていくことが期待されます。



ロボット同士が道の譲り合い



注文された商品をロボットが配送

林総務大臣がけいはんなを視察 先端研究の現場を巡り意見交換

2026.2.21

林総務大臣が地方視察の一環として京都府を訪問し、けいはんなオープンイノベーションセンター（KICK）で開催されたアンドロイドお披露目シンポジウム、国際電気通信基礎技術研究所（ATR）、NTTコミュニケーション科学基礎研究所、NTT京阪奈データセンター、情報通信研究機構（NICT）を訪問し、アンドロイドや情報通信分野の最前線を幅広く視察されました。大臣は、人間らしい表情や動作を備えたアンドロイドに深い感銘を受けたほか、光技術や多言語翻訳技術、AIの信頼性評価技術など、けいはんなが強みとする研究領域の進展を高く評価され、基礎研究から社会実装まで一貫して支援する仕組みの重要性にも触れられました。視察後の会見では、「持続的にイノベーションを生み出す都市」を目指すけいはんなの研究者の声を政策づくりに反映していく姿勢を表明されました。今後は、成長戦略の検討にあわせ、研究開発の推進や情報通信基盤強化など、総務省として具体的な施策を着実に進めていく考えを示されました。



「AIロボットと拓く フィジカルAI時代のまちづくり」 第18回けいはんな学研都市 先端シーズフォーラムを開催

2026.3.6

AIは「考える」段階から「実世界で動く」段階へ。いま注目されるフィジカルAI、とりわけAIロボットは、製造、物流、医療、介護、公共サービスなどの幅広い分野で開発が活発化しつつあります。関西、そしてけいはんな学研都市から次の産業と研究の可能性を展望するフォーラムを、関西経済連合会との共催によりグラングリーン大阪内「産総研・関経連うめきたサイト」で開催しました。

近畿経済産業局による国の成長戦略に位置づけられたロボット政策の最新動向に関する情報提供に引き続き、京都大学大学院情報学研究科教授でAIロボット協会理事の谷口忠大先生から「AIロボットと拓く未来社会」と題して最先端研究と開発可能性について講演いただきました。パネルディスカッションでは、ものづくり企業が集積する関西におけるAIロボット開発のポテンシャルの高さ、スタートアップ企業や学生を含めたネットワークの広がりなど、フィジカルAIに取り組む重要性が示されました。また、国際電気通信基礎技術研究所（ATR）代表取締役社長の浅見徹氏によるアバター技術による「まちおこし」の講演に続いて、関係の研究者や企業関係者の討議で、2025年に開催された「アバターチャレンジ」を話題に、けいはんなを世界に誇れるアバター研究開発拠点にする想い、産学官連携による実証と産業化の方向性が示されました。

政策・研究・産業を横断した活発な議論を通じ、大阪・関西万博後の先端技術による新たな産業創出を目指す機運が一層高まりました。



(写真左から) 近畿経済産業局 長見康弘氏、京都大学大学院 情報学研究科 谷口忠大教授、ATR 脳情報解析研究所 石井信所長、SHIN-JIGEN Founder/Thinker CEO 藤本弘道氏、KUPAC代表 大澤衛正氏、ATR代表取締役社長 浅見徹氏、サンシード株式会社 代表取締役社長 桃井秀幸氏、ATR インタクション科学研究所 宮下敬宏 所長、株式会社Keigan 代表取締役 徳田貴司氏

”遠隔操縦ロボットが公道を走る競技会”アバターチャレンジ2026開催決定！

2026年は11月7日に開催します。競技内容の詳細はWebサイトにて順次ご紹介いたします。

<https://www.avatarchallenge.org/>



学校法人同志社

4/1^木
募集開始

同志社ジュニア・クリエイティブ科学アカデミー 2026 年度受講生募集!

「同志社ジュニア・クリエイティブ科学アカデミー」は、2025年に国立研究開発法人科学技術振興機構(JST)に採択された、先端科学と伝統技術を通して理系分野に関心のある小・中学生の力を伸ばし、「尖った科学者のタマゴ」の育成をめざすプログラムです。

このたび、2026年度スタンダードレベル(活動期間:2026年6月~2027年3月)の受講生40名の募集を、4月1日より開始します。京都・けいはんな地域の最先端企業での実習・実験、特別セミナーなど、充実した学びの機会を用意しています。学生メンターによる丁寧なサポートも本プログラムの特色です。詳細および応募方法は、ホームページをご覧ください。



https://www.doshisha.ed.jp/jrc_academy/



4/17^金
15:00~19:00

ともに考え、ともに学び、ともにポスト万博シティを創りましょう!

第17回けいはんな万博セミナー(ファイナル)
「未来創造セッション2026」

■参加費:無料

■問合せ:(株)けいはんな、ミラトリエ



けいはんなプラザ

5/4^{月祝}
10:00~11:30

日本版・コミュニティダンス・ファシリテーター養成スクール2026地域交流プログラム

ダンスワークショップ
「あなただけのダンスをセレノグラフィカとともに」

■会場:けいはんなプラザ メインホール ■講師:セレノグラフィカ
■定員:20名程度(4歳以上推奨) ■申込:WEBフォームにて
■費用:1,000円 ペア参加1,500円

*ご家族など3人以上で参加する場合は追加1名につき500円 *未就学児は保護者同伴でご参加ください。

*介助パートナーや未就学児の保護者の方も、ご参加の場合は有料。付添のみの場合は無料。

■主催:NPO法人 ジャパン・コンテンポラリーダンス・ネットワーク(JCDN)

■共催:問い合わせ:(株)けいはんな TEL 0774-95-5115



けいはんなプラザのイベント情報はこちら <https://www.keihanna-plaza.co.jp/event/>



奈良先端
科学技術大学院大学

4/22^水
シンポジウム
13:30~17:00
懇談会
17:15~19:00

ARWIT推進センターキックオフシンポジウム — データの価値を最大化する次世代研究・開発DX —

奈良先端大は、文部科学省J-PEAKS事業に採択されました。その中核となる組織として2026年1月に「ARWIT推進センター」を設置し、ARWITシステムの構築、研究データの活用、人材育成を推進します。

■会場:京都テルサ西館1階 テルサホール(京都府京都市南区東九条下殿田町70)

■イベント詳細:<https://www.naist.jp/event/2026/04/011641.html>

■申込締切:懇談会 3/31(火) シンポジウム 4/17(金)

■主催・問合せ:奈良先端科学技術大学院大学 企画総務課(TEL 0743-72-5960)



国際高等研究所

5/15^金
18:00~20:00

第98回けいはんな哲学カフェ「ゲーテの会」

テーマ:「唯識こころの哲学」(仮題)

講演者:多川 俊映氏(興福寺寺務老院)

■会場:(公財)国際高等研究所コミュニティホール

■定員:40名(会場参加)、100名(オンライン参加)

■参加費:無料

■申込方法:ホームページからお申込みください。(4月中旬に受付開始予定)

■問合せ:ゲーテの会事務局 goethe0828@iias.or.jp

■主催:(公財)国際高等研究所



NTTコミュニケーション
科学基礎研究所

5/20^水
・
21^木
・
22^金
(予定)

NTT コミュニケーション科学基礎研究所 オープンハウス2026のご案内 こころと知性を解き明かしまじわる世界をつむぎあう

招待講演1件に加え、所員による研究講演3件と研究展示22件を通じて、当研究所の最新の研究成果を公開いたします。
講演・ポスター・デモ等を通じた、一般の方々にも親しみやすい内容となっております。

■会場:NTT西日本 QUINTBRIDGE・PRISM(予定)
(JR等「京橋」駅から徒歩約10分 NTT WEST i-CAMPUS内)

■Webサイト: <https://www.kecl.ntt.co.jp/openhouse/2026/>

※時間帯や入場方法の詳細を随時公開します

■問合せ:NTT コミュニケーション科学基礎研究所 E-mail: cs-openhouse-ml@ntt.com



公開Webサイトへは
こちらからアクセスいただけます

